

読売新聞 きょう（9月25日）のイチ押し

一面 「兵士が訪問 投票強要」

親ロシア派勢力がロシアへの一方的な併合に向けて23日から住民投票を行っているウクライナ南部ヘルソン州の住民男性がSNSを通じ本紙の取材に応じました。銃で武装した親露派兵が住宅を訪問し「事実上、脅して投票を強要している」と証言しています。

- ★ 男性は「多くの人が投票を棄権すると話している」としていますが、反ロシア的言動で当局に拘束されることが日常化しており、投票を拒否できない状況になっています。
- ★ 選管業務に携わる知人の話として、住民投票が急きょ決まったため、投票用紙が大幅に不足しているそうです。その上で「まともな集計もせず、賛成多数の結果を発表するのは目に見えている。ロシアのいつものやり口だ」と批判しています。

社会面 新基準で一転 過労死認定

三菱ふそうトラック・バス京都支店で2015年、勤務中に体調不良になり急性心不全で死亡した男性社員について、京都下労基署が5年半前の不認定を取り消し、今年6月に労災認定していたことがわかりました。

- ★ 厚労省は昨年9月、労災認定基準を約20年ぶりに改定しました。時間外労働が「過労死ライン」未満であっても、作業環境や連続勤務などの負荷を総合的に評価して労災認定できるようになりました。
- ★ この男性社員は空調設備のない工場で50～60度の高温スチームを使って車の洗浄作業を行っていました。労基署は「著しい疲労の蓄積をもたらす過重労働が認められる」とし、5年半前の「不認定」決定を覆して、労災と認定しました。

他紙と比べて

現在55本の本塁打を放っているプロ野球・東京ヤクルトスワローズの村上宗隆選手。王貞治さんを抜き、日本人選手最多記録を更新するか注目が集まっています。「見る」では村上選手、王さん、60本のシーズン最多記録を持つウラディミール・バレンティンさんの比較や、各種データをビジュアルに紹介しています。